令和7年度
帯広市立豊成小学校
年度末反省

研究主題(2か年計画１年次)

自己実現を目指す深い学び

～他者と関わり合い、探求する学習の充実を通して～

研究仮説①

「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習し自己実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

研究仮説②

他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとする子どもを育てることができるだろう。

今年度の研究
成果と課題

成果

これまでの実践より

研究仮説①
「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習し自己実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

◎学習計画や評価が明確だったため、児童が目標に向けて主体的に動くことができていた。

◎学習だけでなく、なりたい自分に向かって学ぶことができていた。

◎めあてが視覚化されていてよい。身に付けたい力がよくわかる。

研究仮説②

他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとする子どもを育てることができるだろう。

◎他の子の考えを聞いて、自分の間違いに気付いている子がいて、深い学びにつながっていると思う。

◎自由交流の中で同じ考えや違う考えどちらの人とも交流してもよいということが、伝えあう視点がわかりやすくなってよかった。

教職員アンケートより

自己実現を目指す深い学び

～他者と関わり合い、探求する学習の充実を通して～

◎「自分でできた」という達成感を感じている。

◎「なりたい性格に変えることができた」や「友達が増えた」という声が増えた。また、授業をしてみて、手を上げている人が増えていたり、積極的に交流していたりと意欲的な子が増えている印象である。

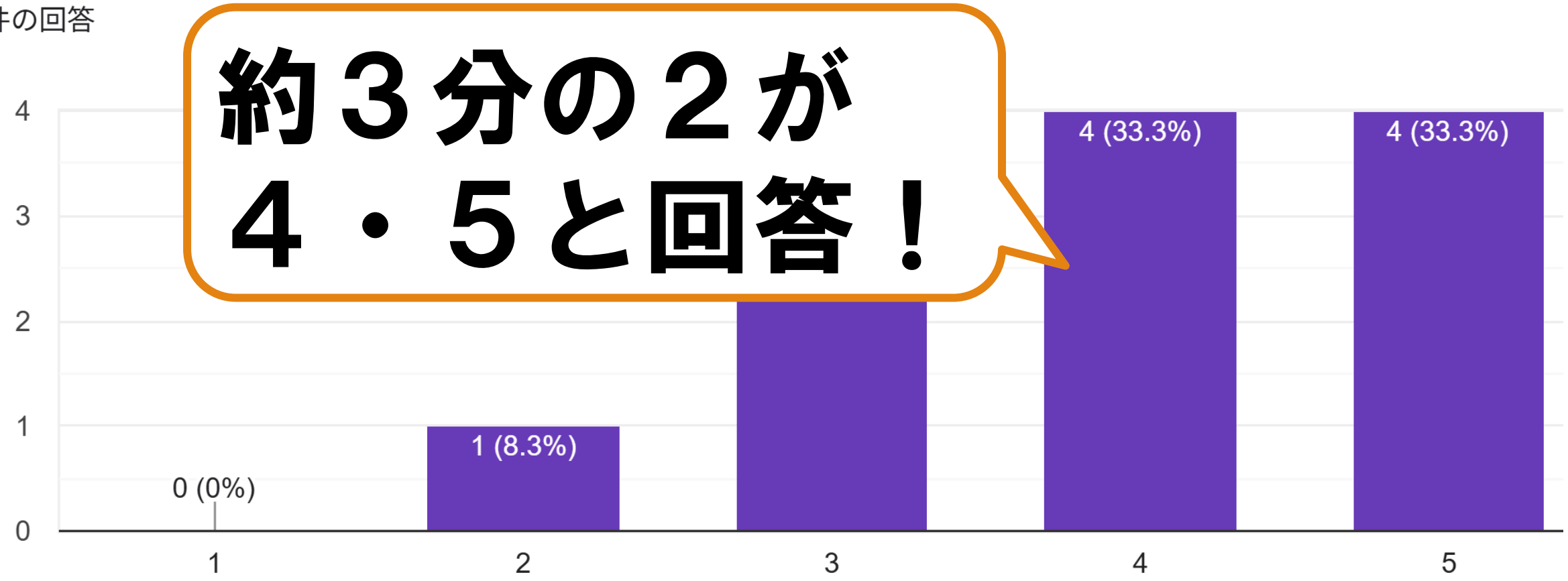
◎自己理解が進む。できたことまたは、足りなかったことを意識できる。

研究仮説①

「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習し自己実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

⑥「デザインシート」や「ルーブリック」を活用…授業、評価を取り入れることができていますか。

12 件の回答



約３分の２が４・５と回答！

研究仮説①
「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習し自己実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

◎学習のゴールが明確である。子どもたち自身がどこまでできるようになれたらよいかわかりやすい。

◎「デザインシート」や「ルーブリック」を活用した授業をすることで、児童が見通しを持ち、計画を立て、テストに取り組むことができている。

◎目標や身に付けるべき力が児童にとっても教師にとっても見える化されるのはよい。

研究仮説①

「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習し自己実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

◎子どもにとって、学習のゴールが何か、また、何ができれば(できるようになれば)よいのかが明確になり、学習に見通しをもつことができた。担任にとっては、指導するポイントが明確になるので、それが指導のしやすさにつながった。

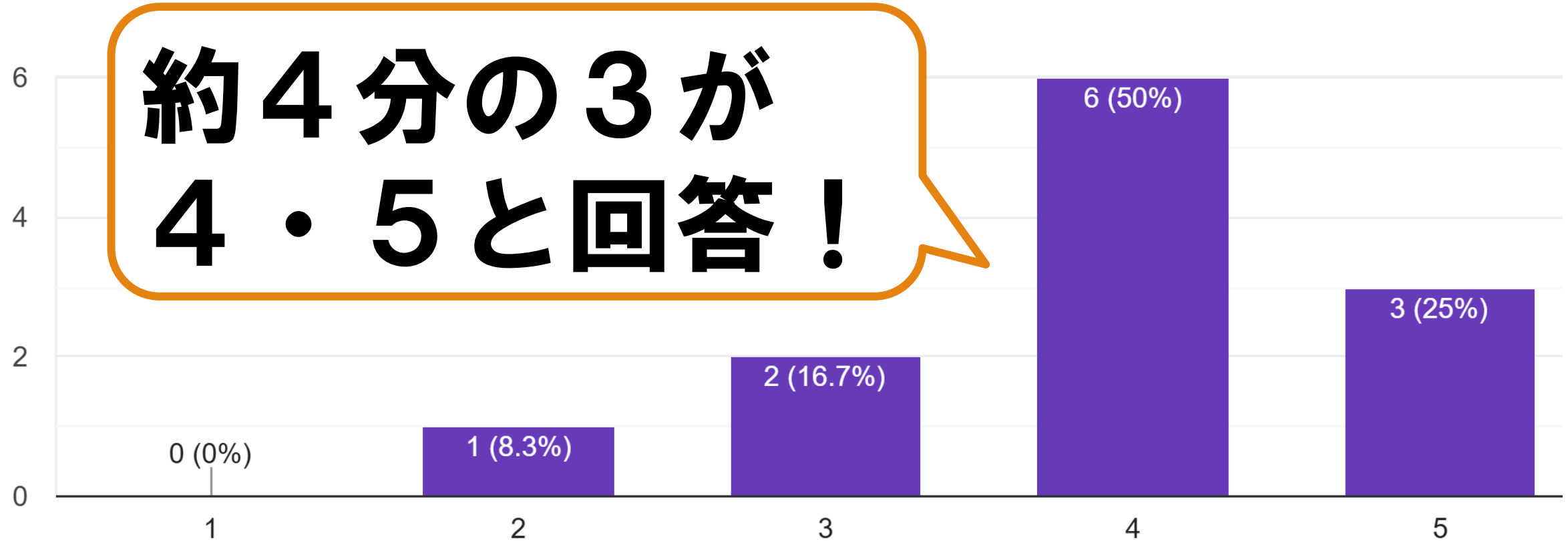
◎見通しをもって子どもが活動をすることができた。成果物を作る際に、評価が指標になって進めることができた。

研究仮説②

他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとする子どもを育てることができるだろう。

⑧授業の中で「個」と「全体」が関わり合う場面をつくることができていますか。

12 件の回答



約４分の３が４・５と回答！

研究仮説②

他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとする子どもを育てることができるだろう。

◎仲間の発表を聞いて「ステキだな」と思うところを真似したり、自分とは違う考えの人がいることを知るよい機会になっている。（世の中にはいろいろな考えの人がいることを知る第一歩。）

◎「個」は、子ども同士の学び合い（教え合い・気づき・自信等）が生まれ、「全体」でその共有が図れる。

◎個の考えを全体に広げたり、全体で議論することで個では気付かない学びに到達できたと思う。

研究仮説②
他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとする子どもを育てることができるだろう。

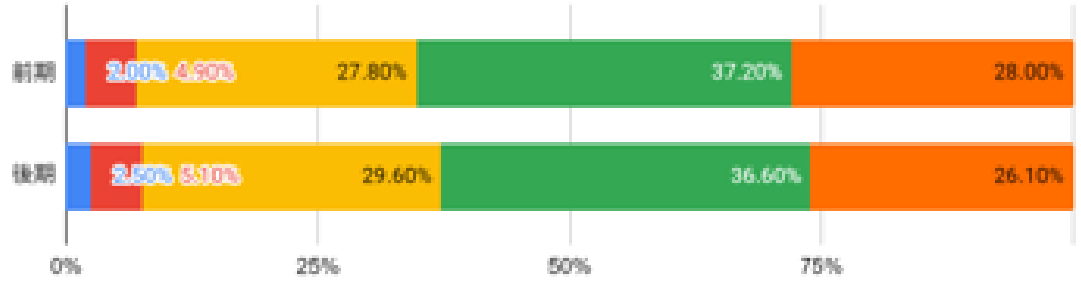
◎他の人の意見も気になる。交流が楽しいという態度が育っている。

◎「個」では、自分のペースでできるよさがある。自然と教え合いや学び合いが生まれる。「全体」では、個で気付けなかった点に気付けるなど学びが広がったり、整理されたりする。

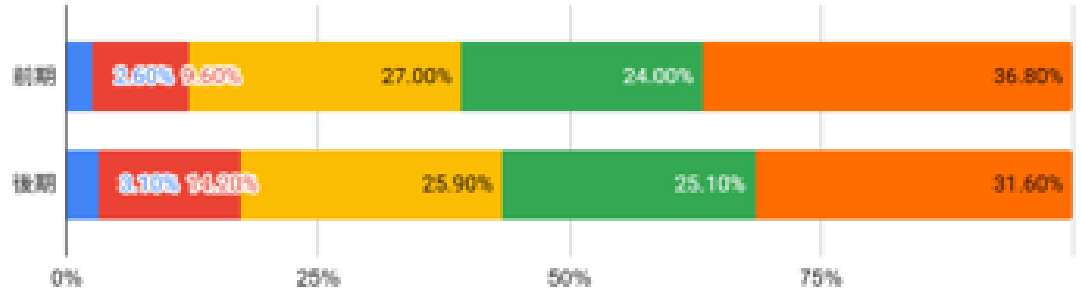
児童アンケートの結果

～平山先生より～

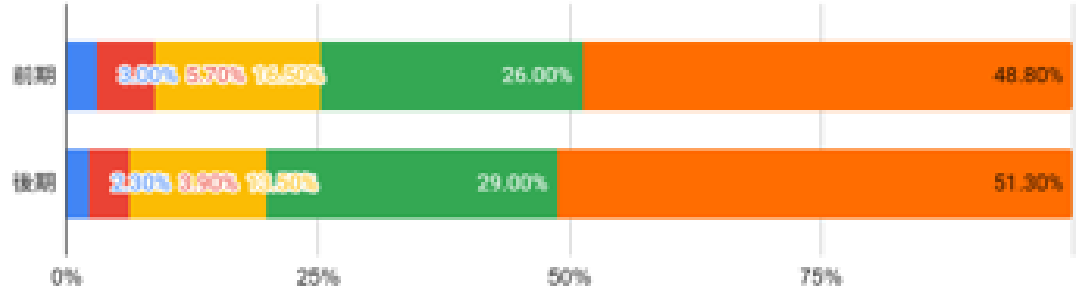
①課題を解決するために、自分で学ぶ計画を立てることができていますか



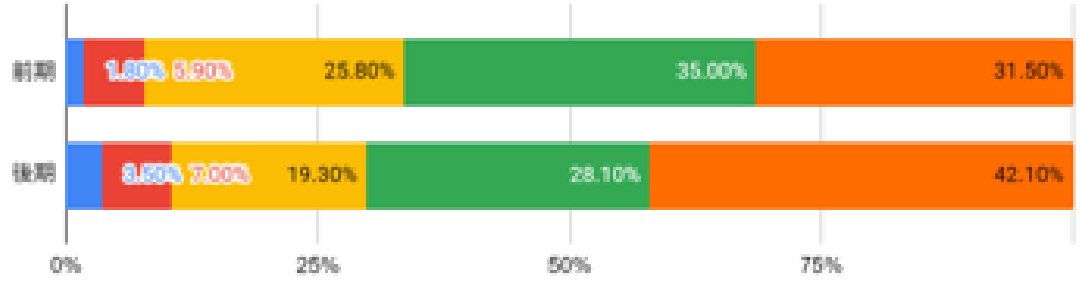
②課題を解決するために、自分の意見を出すことができていますか。



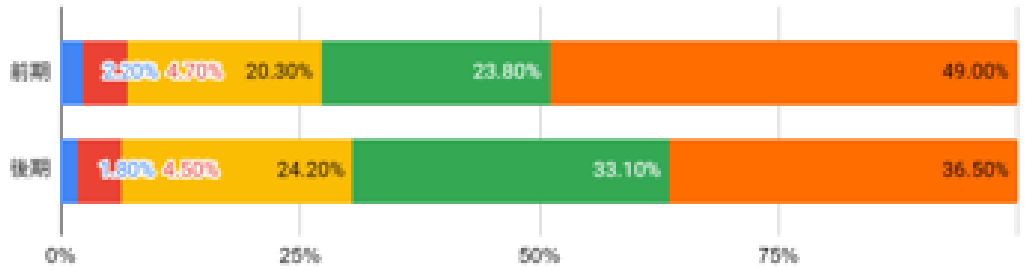
③課題を解決するために、友達と話し合うことができていますか。



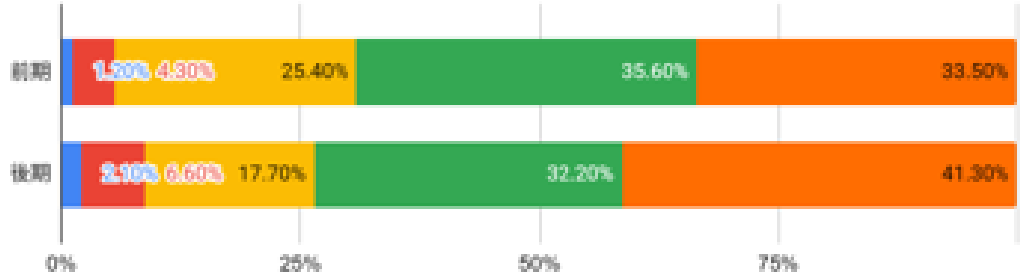
④わからない問題があったときには、粘り強く考えることができていますか。



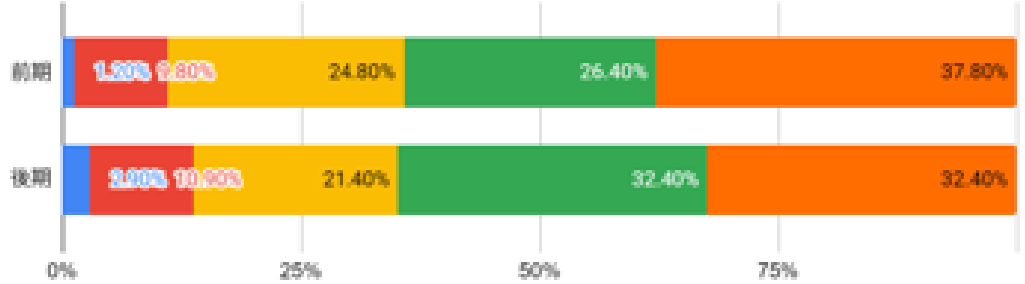
⑤自分が達成したい目標に向けて、自分で「学ぶ」ことができていますか。



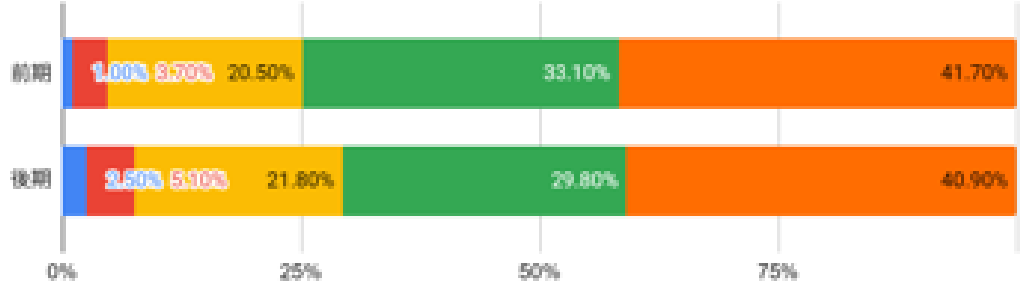
⑥授業の中で、学習の計画を立て、達成できるように授業に取り組むことができていますか。



⑦目標を達成するために、どのように学習を進めるとよいか、自分の学びを振り返ることができていますか。



⑧授業の中で、友達と話し合ったり、友達の考えをもらったりしながら、自分の考えや意見をよりよくすることができていますか。



【成果】

他者との対話意欲と、粘り強さの向上

- 「わからない問題があったときには、粘り強く考えることができていますか（④）」という設問で、最も肯定的な回答（一番右の層）が前期の 31.50%から後期の 42.10%へと大幅に増加しています。
- 「友達と話し合うことができていますか（③）」について、上位 2 項目（肯定派）の合計が前期（48.80% + 26.00%）から後期（51.30% + 29.00%）へと着実に伸びています。

授業内での実践力の高まり

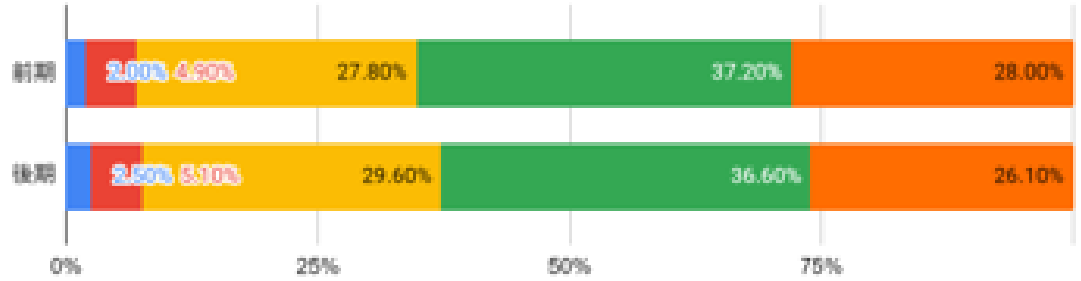
- 「授業の中で、学習の計画を立て、達成できるように授業に取り組む（⑥）」において、最も肯定的な層が前期 33.50%から後期 41.30%へと大きく増加しています。枠組みが与えられた授業内での実行力は高まっていると言えます。

後期は学習内容が複雑化し、難易度が上がる時期です。その中で「すぐに諦めない」児童の最上位層が増加しているのは、非常にポジティブな成果と言える。日々の授業の中で「間違えても考え続けること」が評価されるような、良い学習文化が根付きつつあると考えられます。

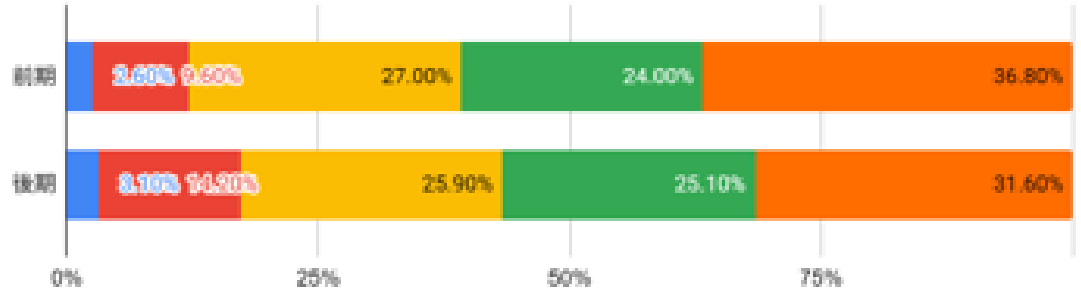
「他者とコミュニケーションをとるハードル」は確実に下がっている。ピア・ラーニング（協働学習）を成立させるための心理的安全性の土台は、後期にかけてしっかりと構築されたと言えるだろう。

自分自身の力だけでゼロから計画を立てる（設問①）」ことにはまだハードルがあるものの、「授業という明確な時間・目標の枠組み」が与えられれば、その中で見通しを持って行動できる児童が増えている。これは、先生方が授業の導入（めあての提示など）を丁寧に行い、児童が「今、何をすべきか」を理解しやすい環境を作ってきた成果が表れている。

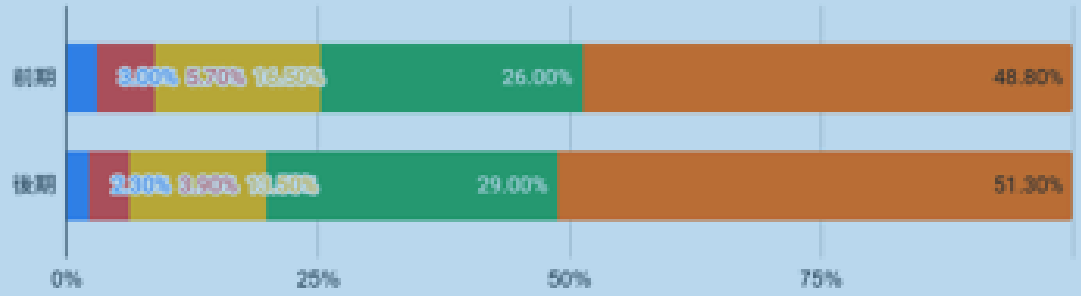
①課題を解決するために、自分で学ぶ計画を立てることができていますか



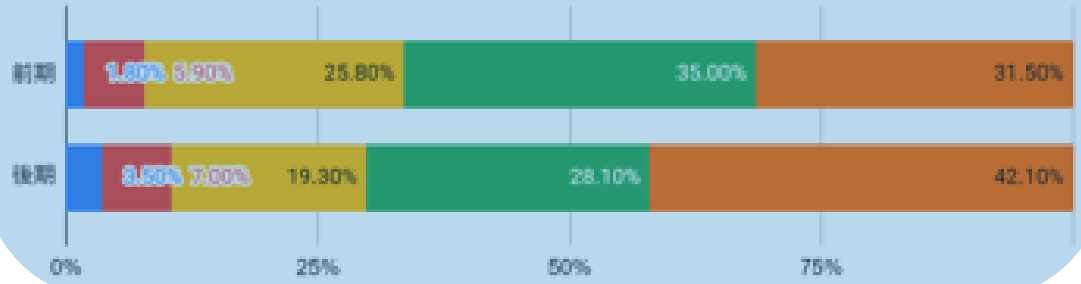
②課題を解決するために、自分の意見を出すことができていますか。



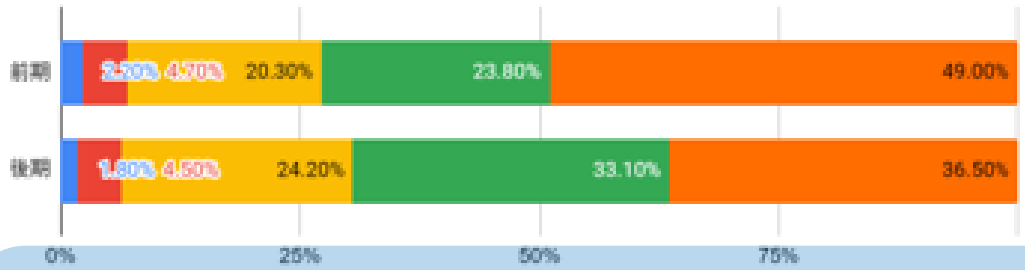
③課題を解決するために、友達と話し合うことができていますか。



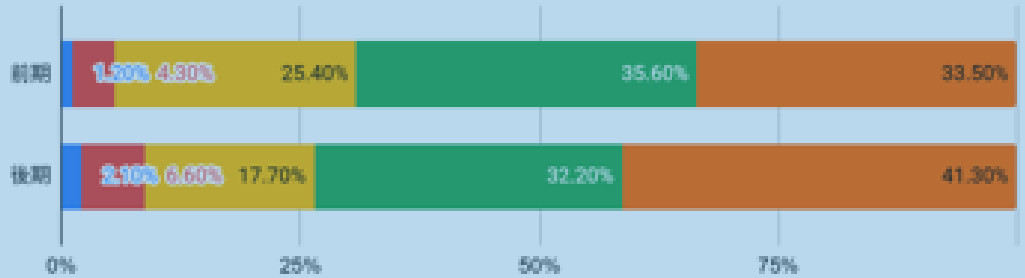
④わからない問題があったときには、粘り強く考えることができていますか。



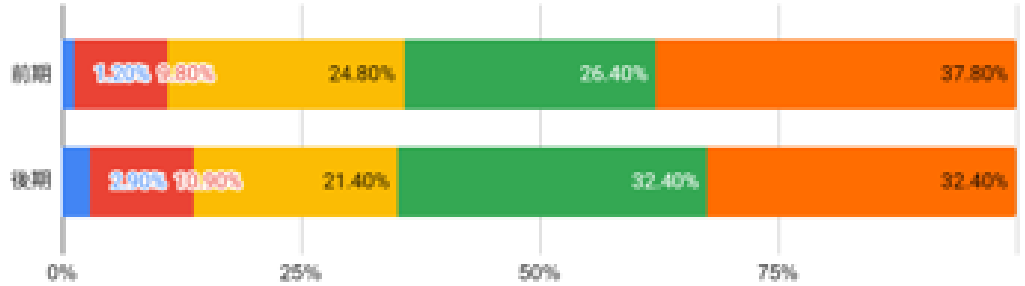
⑤自分が達成したい目標に向けて、自分で「学ぶ」ことができていますか。



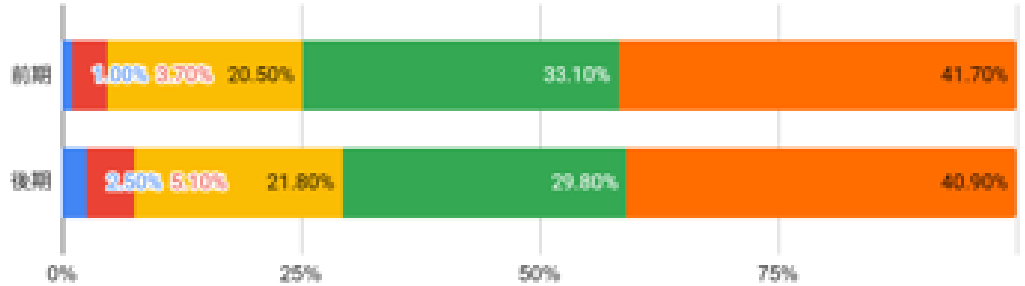
⑥授業の中で、学習の計画を立て、達成できるように授業に取り組むことができていますか。



⑦目標を達成するために、どのように学習を進めるとよいか、自分の学びを振り返ることができていますか。



⑧授業の中で、友達と話し合ったり、友達の考えをもらったりしながら、自分の考えや意見をよりよくすることができていますか。



【課題】

主体的な発信と計画立案の停滞

・「自分で学ぶ計画を立てる（①）」において、肯定的な回答（上位２項目）が前期（37.20%＋28.00%）から後期（36.60%＋26.10%）にかけて減少しています。

・「自分の意見を出す（②）」において、否定的な回答（下位２項目）が前期（2.60%＋9.60%）から後期（3.10%+14.20%）にかけて目立って増加しています。

「対話を通じた学びの深化（質の向上）」の壁

・単純に「話し合う（③）」ことは向上しているのに対し、「友達の考えをもらったりしながら、自分の考えや意見をよりよくする（⑧）」ことについては、肯定的な回答（上位２項目）が前期（33.10%＋41.70%）から後期（29.80%＋40.90%）にかけて低下しています。話合いを「自分の考えのアップデート」に繋げるスキルに課題があります。

学習者の二極化傾向

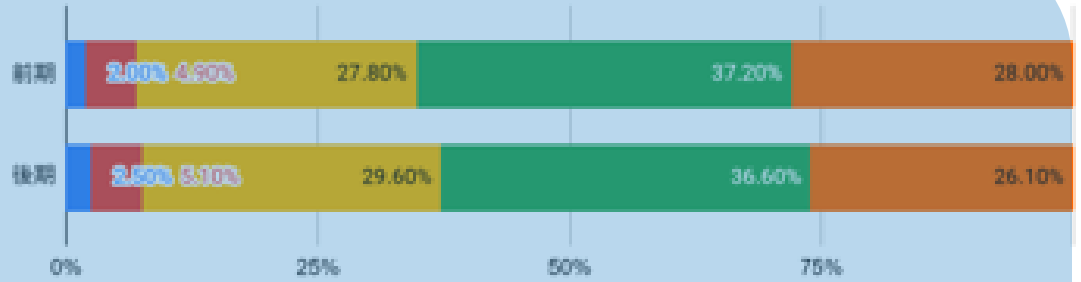
・④や⑥など、最も肯定的な回答が大きく伸びている設問がある一方で、同時に一番左の最も否定的な層（1～3%台）も前期から後期にかけて微増、または横ばいになっている設問が多く見られます。「できる児童」がより伸びる一方で、取り残されている生徒への個別フォローの必要性がデータに表れています。

後期になり学習内容が高度化・複雑化したことで、「間違えたくない」「正しい意見を言わなければならない」というプレッシャーが強まっている可能性がある。心理的安全性が担保された「間違えてもよい発言の場づくり」が急務なのか。

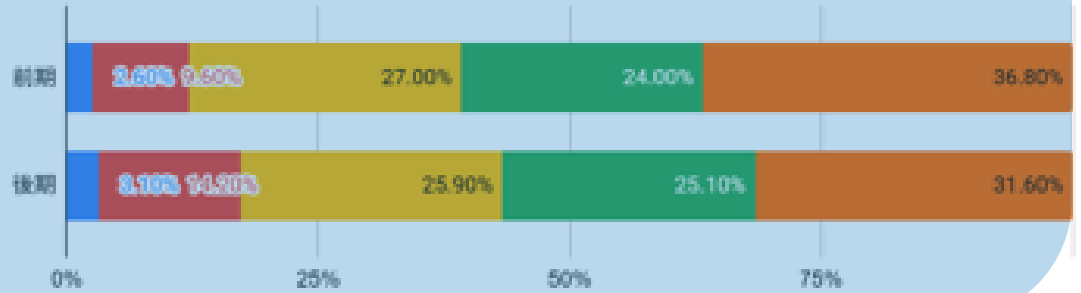
児童は単に「話し合う」ことはできているものの、そこから「他者の視点を取り入れて自分の考えをアップデートする」という高度な認知的活動につまずいていることがわかる。意見を統合・昇華させるための具体的な思考ツールや支援が必要なのだろうか。

授業という枠組みの中での行動（設問⑥）はできている一方で、ゼロベースで自らの課題を発見し、見通しを持って計画を立てるという「自己調整学習」のスキルは一朝一夕には育たないことがわかる。計画の立て方自体を明示的に指導する機会が必要か。

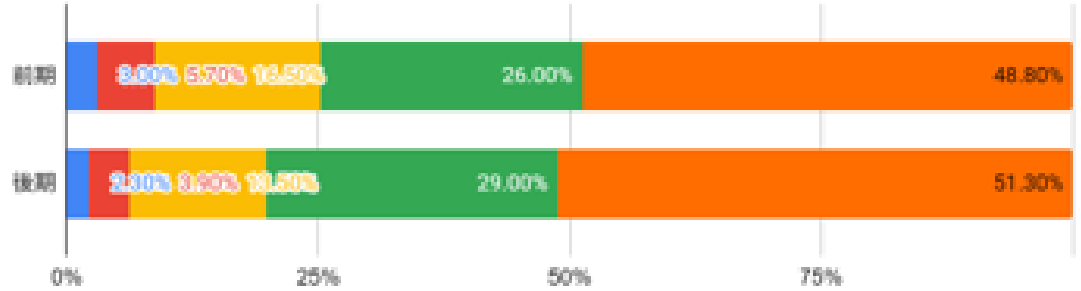
①課題を解決するために、自分で学ぶ計画を立てることができていますか



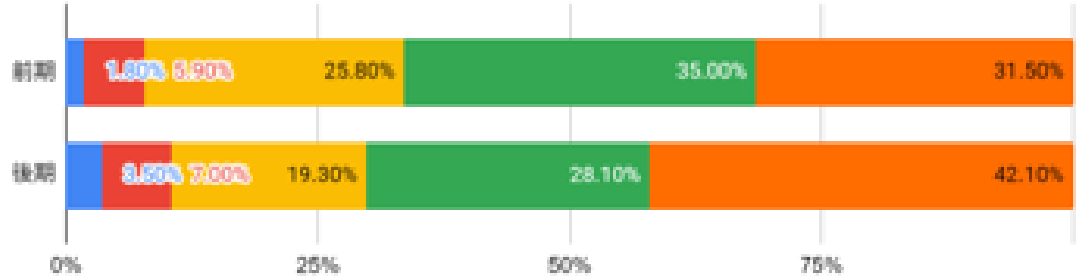
②課題を解決するために、自分の意見を出すことができていますか。



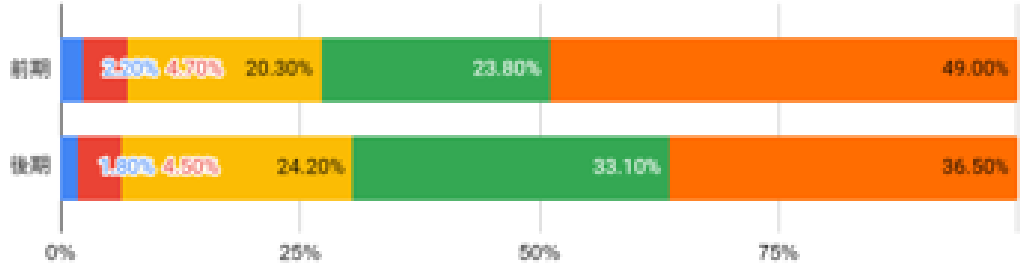
③課題を解決するために、友達と話し合うことができていますか。



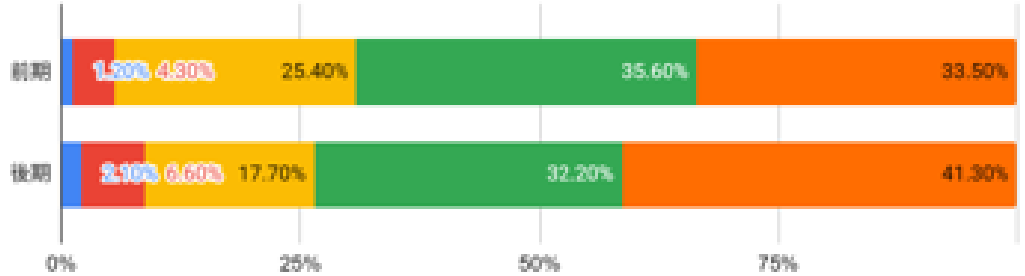
④わからない問題があったときには、粘り強く考えることができていますか。



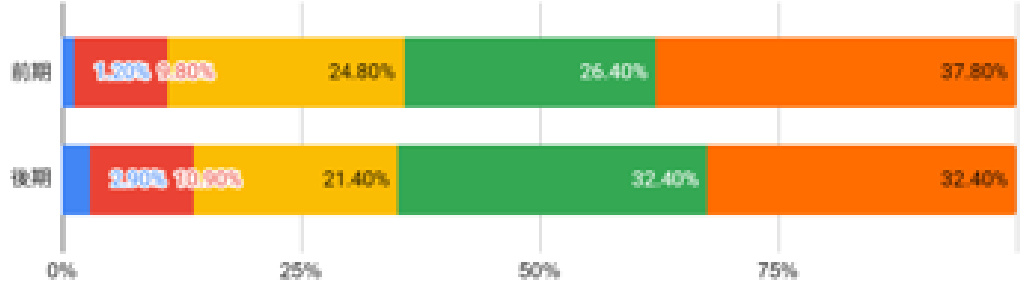
⑤自分が達成したい目標に向けて、自分で「学ぶ」ことができていますか。



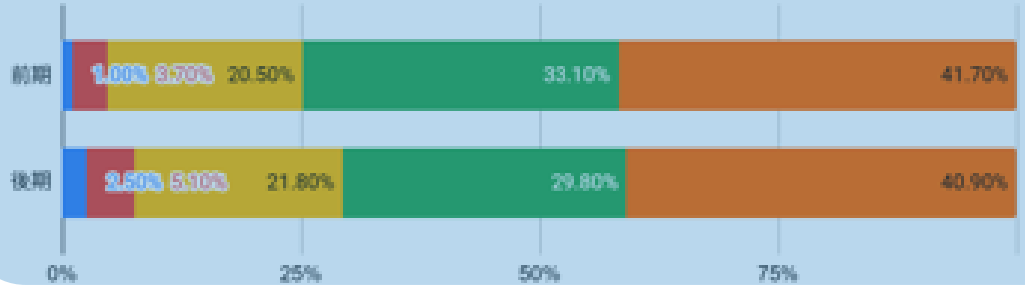
⑥授業の中で、学習の計画を立て、達成できるように授業に取り組むことができていますか。



⑦目標を達成するために、どのように学習を進めるとよいか、自分の学びを振り返ることができていますか。



⑧授業の中で、友達と話し合ったり、友達の考えをもらったりしながら、自分の考えや意見をよりよくすることができていますか。



課題

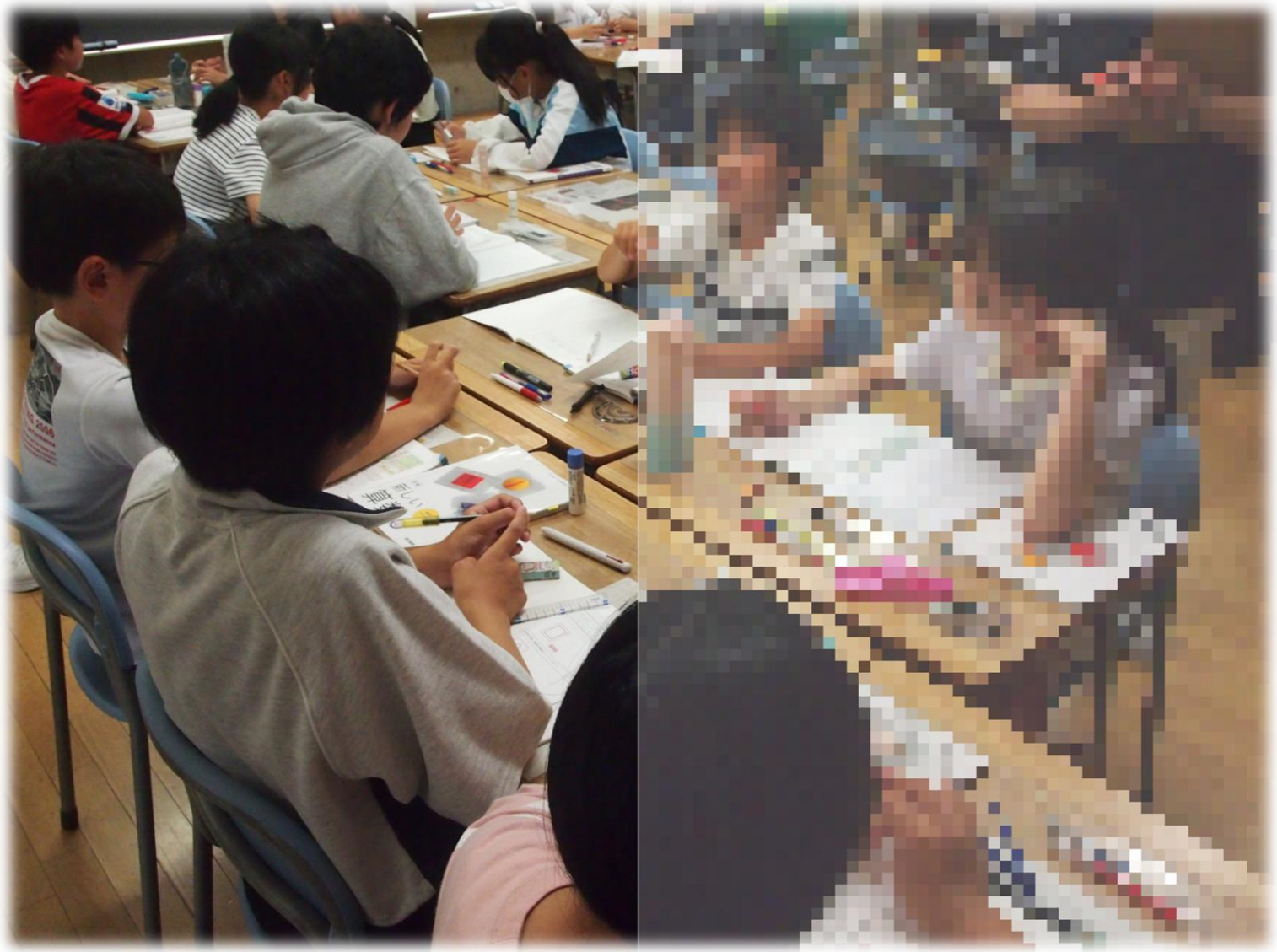
研究仮説①
「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習し自己実現しようとする子どもを育てることができるだろう。

- 低学年だと教師主体になってしまう。
- 準備が大変。毎単元で行うのが難しい。
- 授業構想シートに使いにくい部分がある。
- 意欲の低い子や能力の低い子、逆に高い子も自己の考えを形成できるような手立てを短時間の授業準備で用意することが難しい。

研究仮説②

他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探求しようとする子どもを育てることができるだろう。

- 交流をして仲間の意見は聞くが、聞いて自分の考えにつなげることはもう一歩…。
- 教師が意図的に「個」と「全体」での活動を指示することができるが、子どもから自発的に「他者と交流したい」を引き出すことが難しい。



来年度に向けて

校内研究について

研究主題

〇基本的に今年度の研究を継続
（２か年計画の１年次のため）

公開研について

<u>ブロック１公開</u>　もしくは　**<u>学年１公開へ</u>**

授業を外部へ公開する目的

〇外部からの意見をもらい、校内研究や授業づくりにフィードバックすることができる。

〇質の高い授業を行うことにより、教師の授業力の向上や意識改革、子どもが学習を「わかる」「楽しい」と感じることにつながる。

〇一人一実践

来年度も継続→プレ研や個人研を含む。

指導案は、ブロックで協力し作成してください。

〇研究体制

今年度は低・中・高・特支の４ブロック

来年は部会制もあり？

(例)国語部会、算数部会、書くこと部会…など

○研究教科

今年度は主要４教科＋生活単元・自立活動
（公開されたものは、国語、算数、生単、自活、道徳）

来年度は公開される本数に合わせて…

１年間ありがとうございました！